

この本の効果的な使い方

この『演習問題集(基本編) 国語』は、『予習シリーズ』の各回の單元に合わせてつくられています。

『文章読解』の文章および設問の難度は、『予習シリーズ』に比べて易しく、取り組みやすいレベルで構成されています。

『言語要素』は、『予習シリーズ』の中の重要事項を厳選し、各回見開きの二ページに収めてあります。

ですから、『予習シリーズ』の学習を終えてから、または『予習シリーズ』と併用することで、『国語の「基礎力」を補強することができます。

◎『文章読解の学習』

まず第一に、『予習シリーズ』・学習課題の解説を再読してください。各回の学習課題の解説には、文章の『読み方』の基本が説明されています。『読み方』の手順や注意の配り方などの基本ルールを確認しておきましょう。その上で、この本の、

1 文章を音読する

音読によって、読めない漢字や熟語、意味のわからない語句や表現などを発見し、まず、字面で『読める』(わかる)状態をつくりま

2 文章内容の正確な理解を成立させる

辞書・事典を調べたり、身近な大人に質問したりして、語句の意味から文章内容まで、可能なかぎり正確な理解を成立させます。

3 問いに答えることで理解を確認する

『問い』に対する『答え』そのもの、あるいは『答え』を導くためのヒントは、すべて文章中にあります。『文章→設問→正解』を結び糸を発見することが、文章読解問題を解く基本作業です。解答は、巻末の解答用紙に記入し、解答用紙にきちんと書く習慣をつけましょう。

4 「解答と解説」を読んで理解を深める

×だった問題を大事にしましょう。解説をヒントに読み直し、考え直し、解き直す——自分の弱点克服の出発点です。

◎『言語要素の学習』

さまざまな言葉に関する知識の学習です。覚えることが中心です。反復練習によって定着度を高めるように努めましょう。言語要素の問題については、解答が直接記入できるように、解答らんがついています。

目次

《文章読解の学習》

第1回	文を読む・ことばのきまり	6
第2回	文のつながり	9
第3回	文の役割・話題と要点	12
第4回	段落関係と要旨	15
第5回	総合	18
第6回	場面と情景	21
第7回	人物の気持ちと性格(1)	25
第8回	人物の気持ちと性格(2)	28
第9回	物語・小説の主題	32
第10回	総合	36
第11回	意見と根拠・理由(1)	40
第12回	意見と根拠・理由(2)	43
第13回	経験と感想(1)	46
第14回	経験と感想(2)	49
第15回	総合	52
第16回	表現を読む	55
第17回	詩を読む(1)	58
第18回	詩を読む(2)	61
第19回	総合	64

《言語要素の学習》

第2回	五十音図・国語辞典の使い方	68
第3回	かなづかい・送りかな	70
第4回	漢字の成り立ち・漢字の音訓	72
第5回	総合	74
第6回	漢字の部首	76
第7回	漢字の画数・筆順 漢和辞典の使い方	78
第8回	同音異字・同音異義語	80
第9回	同訓異字	82
第10回	総合	84
第11回	上位語・下位語	86
第12回	類義語・対義語	88
第13回	慣用語	90
第14回	ことわざ	92
第15回	総合	94
第16回	熟語の組み立て	96
第17回	三字の熟語・四字の熟語	98
第18回	多義語	100
第19回	総合	102

解答と解説

《文章読解の学習》	106
《言語要素の学習》	144

解答用紙	153
------	-----

文章読解の学習

第一回 文法講習のついで



1 次の各文のうち、文節に正しく区切られているものを、三つ選んで、記号で答えなさい。

- 1 今年の冬はいつもより寒いだろう。
- 2 ぼく／たちの／学校は／小高い／丘の上に／あります。
- 3 あの／丘の／向こうに／見える／山々が／北アルプスだ。
- 4 父は／本／箱の／中から／一冊の／本を／取り／出した。
- 5 私は／きのう／漢字の／書き取りを／三時間も／しました。
- 6 弟は／お母さんと／映画を／見に行きました。
- 7 森林には／降った雨を／たくわえる／働きが／あります。
- 8 その／とき／しげみの／中で／何かが／動いた。
- 9 今年の夏休みには／父と／いっしょに／富士山に／登る／予定だ。
- 10 すごく／きれいだよ／学校の／屋上から／見る／夜景は。

2 次の各文中の——線部の文節は、アII主語、イII述語、ウII修飾語、エII接続語、オII独立語、のどれにあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1 わたしたちの ② 教室は ③ とても ④ 明るい。
- 2 えつ、 ② もう ③ 宿題を ④ 終わらせたの。
- 3 赤い ① 大きな ② 花が ③ 花壇に ④ たくさん ⑤ 咲いた。
- 4 お母さん、 ② きのう ③ 頼んだ ④ 洗濯物は ⑤ どこに ⑥ ありますか。
- 5 はい、ぼくが ② 太郎です。 ③ そして、こちらが ④ 妹の ⑤ 花子です。

6 ① ところで、そろそろ ② 昼飯に ③ しませんか。

3 次の各文の①主語と、②述語とを、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 きんのう ① 読んだ ② 本は ③ とても ④ おもしろかった。
- 2 麦畑の ① 中で ② ひばりの ③ ひなが ④ かわいい ⑤ 声で ⑥ 鳴いている。
- 3 あの ① 赤い ② 屋根の ③ 建物が ④ 私たちの ⑤ 通う ⑥ 学校です。
- 4 山の ① 上から ② 大きな ③ 石が ④ ゴロゴロと ⑤ 転がり ⑥ 落ちた。
- 5 きんのう ① ぼくたちが ② 会った ③ 人は ④ とても ⑤ 親切 ⑥ だった。
- 6 仕事が ① 終わったら、 ② 私も ③ 子供たちと ④ いっしょに ⑤ 遊ぼう。
- 7 放課後の ① 校庭では ② まだ ③ たくさんの ④ 生徒たちが ⑤ 遊んでいた。
- 8 あれつ、 ① さつき ② ここに ③ 置いた ④ 本が。
- 9 とても ① おいしかったよ、 ② きみの ③ 作った ④ ケーキは。 ⑤ 毎週 ⑥ 日曜日に、 ⑦ 一週間の ⑧ 勉強の ⑨ 成果を ⑩ 確かめる ⑪ テストを ⑫ 受けます。
- 11 森の ① おくから ② かわいらしい ③ 小鳥の ④ さえずりが ⑤ 聞こえる。
- 12 とても ① すばらしかったよ、 ② 今日の ③ きみの ④ パイオリンは。

4 次の各文中の——線を付けた文節が修飾している文節を、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 色とりどりの美しい花が庭一面に咲いている。
- 2 すみれの花が野原に美しく咲いている。
- 3 遠くの森からかつこうの鳴く声が聞こえる。
- 4 そよそよと暖かい春風が吹いてくる。
- 5 とつぜん目の前を黒い大きなものが横切った。
- 6 遠くから木をたおす音が聞こえた。
- 7 あの高い山の向こうの村で母は生まれ
- 8 子供のころに別れた母に会うため、はるばると千里の道をやってきた。
- 9 屋根に丸い大きなあなが開いた。
- 10 幼い花子は登った、一步、一步、ゆっくりと。
- 11 このドロドロした透明な食べ物はいったい何ですか。
- 12 母はあわてて、つけたばかりのカスコンロのス
- 13 きのはとてもつかれてたのでお風呂にも入らないで寝てしまった。
- 14 あれっ、ひきだしのなかにかくしておいた成績表が。
- 15 そんなにひどい悪口を言われればおとなしい

5 次の各文の——線部の文節どうしは、A||主語・述語の関係、B||修飾・被修飾の関係、C||対等(並立)の関係、D||補助・被補助の関係、のどれにあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1 おやつにみかんとケーキを食べた。
- 2 谷川を流れる水は夏でもとても冷たい。
- 3 ぼくもみんなといっしょに海に行きたい。
- 4 明るい場所に出てゆっくり調べよう。
- 5 初めての料理だが食べてみると意外においしかった。
- 6 庭にはしとしと春雨が降っている。
- 7 日本の中央部には高く険しい山々がそびえている。
- 8 父は今朝成田から飛行機でアメリカへ旅立った。
- 9 いきなりパンツと先生が両手を打ち鳴らしました。
- 10 イッチを切った。
- 11 南極大陸は一年じゅう分厚い氷におおわれた世界だ。
- 12 たとえどんな大雨が降ろうとぼくたちは出
- 13 発する決心を固めた。
- 14 三人の子供はおそろおそろいちばんはしつこ
- 15 あるトロツコを押した。

10 夏休みには 海も 山も 観光客で いっぱいになる。

⑥ 次の各文の主語と述語の関係は、A||何が|どうする、I||何が|
|どんなだ、U||何が|なんだ、のどれにあたりますか。それぞれ
記号で答えなさい。

- 1 今日の 給食当番は 山田君だ。
- 2 今日の 海は 波も なく おだやかだった。
- 3 冷たい 北風が はげしく 吹きまくる。
- 4 ぼくたちの 遊び場は いつも 校庭の すみの 砂場だった。
- 5 いなかの おばあさんは 今年で 九十九歳に なるが とても 元気だ。
- 6 けやきの 木の こずえで もすが けたたましい 声で さえずる。
- 7 放課後の 音楽室で ひとりで ピアノを ひくのが いちばん 楽しかった。
- 8 ぼくも 勇気を 出して ニメートルの はばの 川を 飛び越えた。
- 9 私が 君たちの クラスの 新しい 担任です。
- 10 井戸から くみあげた 水は 夏でも 冷たかった。

《文章読解の学習》

第1回

文を読む・つむぎのめざす

「6ページ」

① 文節とは、文を意味のうえからも、実際に話すときの言葉の区切りのうえからも、不自然な言い方にならないかぎり、できるだけ短く区切った言葉のまとまりをいい、文節と文節の間には、「ネ・ヨ・サ」などをに入れて話すことができます。

1は「今年の冬はいつもより寒いだらう」と、3は「あの丘の向こうに見える山々が北アルプスだ」と、8は「そのときしげみの中で何か動いた」と言うことができますね。他の文の正しい切り方は次の通りです。

- 2 ぼくたちの／学校は／小高い／丘の／上に／あります。
- 4 父は／本箱の／中から／一冊の／本を／取り出した。
- 5 私は／きのう／漢字の／書き取りを／三時間も／しました。
- 6 弟は／お母さんと／映画を／見に／行きました。
- 7 森林には／降った／雨を／たくわえる／働きが／あります。
- 9 今年の／夏休みには／父と／いっしょに／富士山に／登る／予定だ。
- 10 すごく／きれいだよ／学校の／屋上から／見る／夜景は。

① 1・3・8

② ④は文末にあって「どんなだ」ということを表しているので述語、②は「何が」明るいかを示しているので主語、①は「何の」教室かくわしく説明しているので修飾語、③も「どのくらい」明るいかをくわしく説明しているのでもやはり修飾語になります。

2 ①は感動、おどろきを表す言葉なので独立語です。④の述語「終わらせたの」に対する主語「だれが」を表す言葉は省略。
5 ①は応答を表しているの、独立語、②は前後の文をつないでいるので、接続語です。

6 ①の「ところで」は話題転換の接続語です。

- ②
- | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|---|----|----|----|----|
| 1 | ①ウ | ②ア | ③ウ | ④イ | 2 | ①オ | ②ウ | ③ウ | ④イ |
| 3 | ①ウ | ②ア | ③ウ | ④イ | 4 | ①オ | ②ウ | ③ア | ④イ |
| 5 | ①オ | ②エ | ③ウ | | 6 | ①エ | ②ウ | ③イ | |

③ 倒置や省略のない、ふつうの語順の文の述語は必ず文末にあります。その述語をまずおさえ、次にその述語に対する主語、「何が」「だれが」にあたる言葉をとらえましょう。

- 5 「親切だった」のはだれがか↓「人は」。「ぼくたちが」は「会った」の主語で、「親切だった」のが「ぼくたちが」ではありません。
- 6 「遊ぼう」としてはだれがか↓「私も」。「仕事」は「終わったら」の主語で、「遊ぼう」の主語ではありません。
- 7 「遊んでいた」のはだれがか↓「生徒たちが」。「校庭では」は「ここで」という場所を表す修飾語で、「遊んでいた」の主語ではありません。
- 8 「本が」が主語ですが、「どうする」「どんなだ」にあたる述語は省略されています。
- 9 倒置文なので、ふつうの語順に直してから考えましょう。
- 10 文末の述語「受けます」に対して、「だれが」を表す主語は省略されています。日本語では、「私は」「ぼくは」というようなわかりきった主語はしばしば省略されます。

12 倒置文なので、ふつうの語順の文に直して考えましょう。

14 主語「成績表が」に対する、「なくなってしまうた」のような述語が省略されています。

15 述語「怒るよ」に対して、「だれが」を表しているのは「ぼくだつて」ですね。「が・は」がついている言葉が主語になることが多いのですが、「だって・さえ・こそ・まで・だけ」などの言葉がついて主語になることもあります。

13	①×	②㊦	14	①㊦	②×	15	①㊦	②㊦
10	①×	②㊦	11	①㊦	②㊦	12	①㊦	②㊦
7	①㊦	②㊦	8	①㊦	②×	9	①㊦	②㊦
4	①㊦	②㊦	5	①㊦	②㊦	6	①㊦	②㊦
1	①㊦	②㊦	2	①㊦	②㊦	3	①㊦	②㊦

4 倒置のない、ふつうの語順の文の場合、修飾される言葉は修飾語より後ろにあります。だから、修飾語を下それぞれ文節に続けてみて、その二つの文節だけで、言い回しとして不自然ではなく、意味が通るものを選びましょう。

たとえば、4なら、「そよそよと→暖かい」「そよそよと→春風が」「そよそよと→吹いてくる」と続けてみると、不自然でない言い回しで意味も通じるものは、「そよそよと→吹いてくる」ですね。

7 「あの→山の」「でも、「あの→村で」でも、自然な言い回しで意味が通じますね。しかし、「村」は「山の向こう」にあるのだから見えません。「あの」と指さしているのだから、見えない村ではなく、遠くに見える「山」をさしていることがわかりますね。

10 倒置文なので、「幼い 花子は 一歩 一歩 ゆっくりと 登っ

た」とふつうの語順に直して考えましょう。

12 「あわてて→つけた」のではなく、「あわてて→切った」のです。

14 「たとえ」は、「……ても」「……と」など仮定の言い方に続く、呼応の副詞です。

13	⑤	14	㊦	15	㊦
7	㊦	8	㊦	9	㊦
1	㊦	2	㊦	3	㊦
4	㊦	5	㊦	6	㊦

5 「食べて みると」「みる」は、目で「見る」という本来の意味を失って、上の「食べて」という言葉に、「ためしに……する」という意味を添えているだけなので、「補助・被補助の関係」。

6 「降って いる」の「いる」も、生き物が存在するという本来の意味を失い、上の「降って」という状態が「ずっと続いている」という意味を添えているだけなので、「補助・被補助の関係」です。

7 「高く」も「険しい」も、どんな「山々」かをくわしく説明している、ともに「山々が」を修飾しています。

7	ウ	8	ア	9	イ	10	ウ
1	ウ	2	ア	3	ア	4	イ
5	エ	6	エ				

6 述語を言い切りの形に直して考えましょう。2は「おだやかだ」、4は「砂場だ」、7は「楽しい」、8は「飛び越える」、10は「冷たい」と直して考えるとわかりやすいですね。

7	イ	8	ア	9	ウ	10	イ
1	ウ	2	イ	3	ア	4	ウ
5	イ	6	ア				